



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



大学創立 80 周年を迎えて歯学部の一層の発展を

歯学部長 宮崎 隆

創立記念日の11月15日午後2時半から、上條講堂にて昭和大学創立80周年記念式典が厳粛に執り行われました。本学名誉教授、医学部の卒業50周年以上の招待同窓生、各学部同窓会役員、大学関係者など約300名が参列しました。国歌斉唱後、小口理事長が式辞を述べ、ついで細山田学長の挨拶、甲斐医学部同窓会長、石井名誉教授代表の祝辞が続きました。最長老の12回生の永見先生が代表で卒業生表彰を受けました。記念DVD上映後、小口理事長が「昭和大学について」特別講演をされ、本学の将来へ向けての展望を熱く話され、皆の力を合わせて日本一の大学を目指そうと檄を飛ばされました。歯学部についても、創設時に既に計画があった医科を中心とするチーム医療の一員として活躍するために、近い将来歯科病院の機能を旗の台に移転し、他大学にはできない特徴を有する日本一の歯学部を目指して欲しいと期待を述べられました。最後に校歌を斉唱して閉式しました。



会場を品川のグランドプリンスホテル新高輪の飛天の間に移し、6時半から祝賀会が開催されました。官公庁、全国の大学、医療関係者ほか多くの来賓が出席し、教職員をあわせて1500名の大盛況の祝賀会でした。歯学部関係では、おつきあいのある私立歯科大学の理事長、学長、学部長の諸先生方、さらには近隣歯科医師会の会長が出席してくれました。

主賓の石原東京都知事から、初年時全寮教育を始め、本学の教育や診療に高い評価があり今後も期待していると祝辞がありました。祝賀会には、本学の管弦楽団、グリークラブ、メディカルオールスターズ、そして応援指導部の学生が協力してくれ、素晴らしい演奏や演技で祝賀会を演出してくれました。学生の協力と高い能力に感謝感激です。

また、展示された資料や、DVDに編纂された大学紹介、来賓の諸先生方の挨拶、記念誌等から80年間に本学が文字通り医系総合大学として大きく発展してきたことが実感され、その一員として歯学部も今後益々頑張らなくてはと痛感しました。

本歯学部は創設以来諸先輩のご尽力で大きく成長してきましたが、近年急速に歯科医療と歯学教育を取り巻く環境が悪化しつつあります。私達は外圧に屈すること無く、医系総合大学の環境の中で他大学と差別化して、質の高い歯科医療人の育成を目指し、高度な歯学研究を推進し、さらに高齢社会の長寿健康に貢献する歯科医療サービスを提供していきましょう。昨年度から理事会内に設置された大学活性化委員会で、歯学部教育の見直しを進めてきましたが、教育目標の達成のためにはもう一度組織の見直しをすべきとの結論に至り、11月11日に開催された理事会で新しい臨床系講座・診療科の案が承認されました。

主な改定点は、齶蝕歯内治療学講座を歯科保存学講座に名称変更、総合歯科、歯内治療科、および病院病理科の新設、総合診療歯科を歯学教育研修センターに、インプラント科をインプラントセンターに名称変更です。今回の改定は地域連携や医学部附属病院との連携強化、卒前臨床実習と卒業研修の整合・連続性と一層の充実、さらに各専門診療領域の充実等を目的にしています。これから、必要な規程と人事を順次整備していきます。本学の創立80周年を迎えて、歯学部が一層発展できるように関係者のご指導、ご協力を宜しく申し上げます。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

12月6日(土): 第28回昭和歯学会例会, 大学院入学試験

1月17, 18日(土, 日): 大学入試センター試験

1月30日(金): 歯学部入学試験(選抜I期・センター)

4大学歯学部交流会に参加しました

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

第6回四大学歯学部(北海道医療大学, 岩手医科大学, 福岡歯科大学, 昭和大学)交流会が, 平成20年10月6日, 7日に岩手医科大学の主催で行われました。本学から宮崎歯学部長, 立川学生部長, 佐藤教育委員長, 田中富士吉田教育部学生部長, 片岡歯科医学教育推進室長, そして教務課から山口教務課長と小野沢教務課長補佐の7名が参加しました。

最初に2年前に完成した岩手医科大学のメインキャンパスから車で40分ほど離れた矢巾キャンパスを見学しました。平成19年度から薬学部を設置して, 1年生は寮生活を送っています。会議は大堀理事長, 小川学長, 三浦学部長の挨拶から始まり, 「教養教育の取り組みについて」というテーマについて発表と討論が行われました。岩手医大からは2年前に開設した「共通教育センター」の佐藤センター長が準備・導入教育の実態を説明されました。本学からは田中教授が「富士吉田教育部における学部横断教育について」を紹介し, 多くの質問を受けました。

2日目は情報意見交換会が開かれました。本年文部科学省の戦略的・大学連携事業の選定を受けることに決定した本4大学を含む8大学で行う「口腔医学の創設・育成について」について福岡歯科大の北村教授から概略の説明があり, 今後のスケジュールや各大学の役割分担などについて活発な意見交換を行いました。

各大学がその特色を活かしながら教養教育を含めて熱心な取り組みを行っていることに, 大変刺激を受けました。本学は富士吉田における全寮生活と東京にある医系総合大学という枠組みの中で, 本学ならではの口腔医学教育を行う必要性を痛感しました。

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に歯学部の研究課題が採択されました

歯学部研究活動委員会委員長 上條 竜太郎

文部科学省は本年度から「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の公募を開始しました。これは私立大学で, 先端的な研究で今後の発展が期待できる研究や, 優れた研究実績を有し今後も継続的に発展が期待できる研究について, その研究基盤形成を支援し, 当該分野における世界的研究拠点の育成をめざすものです。本学歯学部は本事業に応募し, 見事採択されました。研究課題名は, 「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究—発症メカニズムの解明からQOLの向上を目指した包括的リハビリテーションまで—」で, 研究代表者は立川哲彦教授です。本研究は口腔癌について, その発症メカニズムの解明や

先進的診断・治療法開発に関する研究はもちろんのこと, 術後患者のQOL向上を主目標の一つに掲げ, 歯学部ならではの口腔癌研究拠点の形成を目指すものです。歯学研究科は現在, 文部科学省よりハイテク・リサーチ・センターの選定を受け, 顎口腔機能障害に関する包括的なプロジェクトを推進しておりますが, 今回採択された研究課題はそれとは異なる視点から独立に, 研究対象を口腔癌に限定して, 基礎・臨床の両面から研究を推進します。

今回の採択を受け, 歯学部は文部科学省の補助金により, 今後3年計画で大型研究機器の導入を図り, 研究基盤の整備を進めます。

入試結果(推薦・編入)報告

入試常任委員 井上 富雄

11月9日(日)に平成20年度の歯学部推薦・編入学試験が旗の台キャンパスで行われました。当日は、曇りやや寒い天候でした。全国的にも歯学部の志願者は減っているようですが, 推薦の志願者数は46名で, 昨年よりも1名の減少に止まりました。編入学試験は若干名の募集に対して, 昨年より1名減の19名の志願者がありました。合格発表は11月11日に行われ, 推薦入試は26名(男子8名, 女子18名)が合格し, 編入学試験では5名(男子3名, 女子2名)が合格しました。今年度も昨年度と同様に薬学部と同日に推薦入試が実施されましたが, 特にトラブルもなく無事終了いたしました。これから選抜Ⅰ期, Ⅱ期等の試験が始まりますが, 実施時期が昨年と異なっておりますのでご注意ください。職員の皆様には今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H20.10.27~11.5	H20.11.9(日)	H20.11.11(火)
編入	若干名	H20.10.27~11.5	H20.11.9(日)	H20.11.11(火)
センター	約10名	H.20.12.24~H.21.1.23	H21. 1.17(土), 18(日), H21. 1.30(金)	H21. 2. 5(木)
選抜Ⅰ期	55名	H20.12.24~H21.1.23	H21. 1.30(金)	H21. 2. 3(火)
選抜Ⅱ期	約8名	H21.2. 9~H21.2.24	H21. 3. 1(日)	H21. 3. 3(火)

診療統計(平成20年10月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,595	715.2	700.0	712.2
入院患者	379	12.2	12.5	10.9

平成20年度解剖慰霊祭開催される

口腔解剖学教室 江川 薫

平成20年度解剖慰霊祭が晴天に恵まれた10月21日(火)午後2時より上條講堂で行われました。平成19年9月から平成20年8月の間に亡くなられ系統解剖または病理解剖のために大学に献体された物故者を慰霊するために、大学教職員参列のもと、御遺族をお招きしてしめやかに執り行われました。歯学部解剖学実習のためにこの1年間に献体された物故者は30柱であり、献体させていただいた物故者に感謝の意を込めて歯学部2年生の学生全員が参列しました。

開会の辞に引き続き、大学に献体して下さいました物故者の御冥福をお祈りして参列者全員で黙祷が捧げられました。昭和大学代表として医学部第二病理学教室の太田秀一教授が祭文を述べられました。続いて医学部、歯学部、保健医療学部の学生代表が弔辞を述べました。歯学部からは2年生の塚崎雅之君が学生代表として壇上で弔辞を述べ、献体者への慰霊と感謝の念および解剖学実習の経験をふまえて勉学に励むことを御霊に約束しました。細山田学長から参列者に御挨拶が述べられ、参列者全員が献花を捧げて解剖慰霊祭は午後3時に終了しました。

日中歯科医学大会に参加しました

小児成育歯科学教室 船津 敬弘



本年9月28日、29日の両日に中国の西安市で開催されました第四回日中歯科医学大会にて発表してまいりました。

大会が開催された西安は中国を代表する古都であり、秦の始皇帝陵をとりまく兵馬俑坑やシルクロードの東の起点として有名で、随所に昔ながらの中国の風景をみることができる都市でした。大会は特別講演8題、一般演題325題のなかなか規模の大きいもので、日本からは全国の歯科大学および一般の開業医の先生からの演題もあり、中国からは第四軍医大学を中心にやはり各地の大学からの演題が出されていました。本大会に出席して、中国でも非常に先進的な歯科的研究も多数行われていることを知り、それらが早く人民の方々に還元されればとの思いを強くしました。我が昭和大学からも9題の発表があり盛況のなかで行われました。当教室では歯周病学教室と連携しながら2001年より中国吉林省の吉林大学歯学部と共同で、同省の長春市にある小学校において歯科検診および口腔衛生指導を定期的に行っており、今回はその内容について発表を行いました。中国は

日本に比べるとまだ口腔衛生状態は良いとは言えず、齲蝕が治療されている割合も決して高くはない現状があり、我々の活動を通じて少しでも中国の子供たちの健康に寄与できればと思います。

第50回歯科基礎医学会学術大会・総会に参加して

歯学部5年生 小田原 聖

9月23日から25日の間、TOC 有明コンベンションホールにおいて第50回歯科基礎医学会学術大会・総会が開催され、私も「学生ポスター発表」で参加いたしました。自らの発表のみならず先達の先生方の発表や講演を拝聴できた本大会の参加は、私にとって学内の生活では得ることができない貴重な体験となりました。私が本大会で発表することができたのも、主催の仕事を行いながら夜遅くまで実験や発表の準備を手伝ってくださった先生方のおかげです。この場を借りて深く感謝申し上げます。さて、私が歯科基礎医学会で発表することになったきっかけは、大学3年生年度末の「D3研究入門」であります。カリキュラム自体は2週間という短い期間でしたが、その後、研究成果を本大会で発表する機会をいただき、期間終了後も頻りに研究室に足を運ぶようになりました。今まで、研究室へ行くことなど数える程度でしたが、先生方と色々話していくうちに研究が身近に感じられるようになりました。「D3研究入門」は将来歯科医師となる上で、基礎歯学のみならず歯科全般に関して一層の知識・理解が深まると思います。そこで後輩の皆さん、是非「D3研究入門」を選択されることをお勧めいたします。



専門医取得

広報委員長 井上 富雄

日本歯科麻酔学会認定医 取得
阿部 淳子 先生, 玄番 晶子 先生,
矢部 ゆりか 先生
日本補綴歯科学会専門医 取得
原 聡 先生
日本口腔インプラント学会専門医 取得
内田 圭一郎 先生

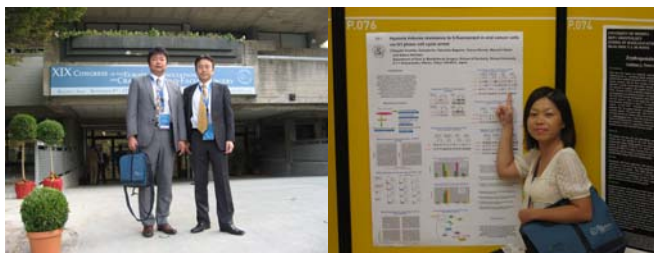
第19回ヨーロッパ頭蓋顎顔面外科学会に参加して

大学院4年(顎口腔疾患制御歯科学専攻)
葭葉 清香

この度、新谷悟教授と羽鳥仁志准教授と一緒にイタリア・ボローニャを訪問し第19回ヨーロッパ頭蓋顎顔面外科学会に参加しました。本学会は1970年に発足し、口腔外科医に留まらず、形成外科、耳鼻咽喉科、整形外科等の幅広い医療従事者を対象としており、ヨーロッパ地域においては、非常に中心的な位置を占める学会です。

インプラント補綴、頭頸部外傷へのアプローチ、口腔癌における基礎的・臨床的研究報告など、様々な領域において最先端の研究報告・臨床報告を勉強して行くことが出来ました。中でも興味深く感じたのは顎関節領域の手術をテーマにしたセッションでした。下顎頭骨折に対して、日本においては整復・固定といった非観血的処置が主流であり、観血的処置を行うにあたっては、口腔内からのアプローチを主体としておりますが、プレート・スクリューを用いた受傷後早期の観血的処置、口腔外からの下顎頭骨折へのアプローチを積極的に行い、良好な治療結果と予後を報告している施設があり、興味深く感じました。

現在私は、大学院の4年次で、口腔癌の癌化の機序・新たな治療標的の検索をテーマに研究に励んでおります。大学院最後の年にこのような大きな国際学会に参加させて頂き大変素晴らしい経験をさせて頂きました。そして、この経験を生かして大学院卒業後も、臨床に即した患者さんに還元できる研究をしたいと考えております。



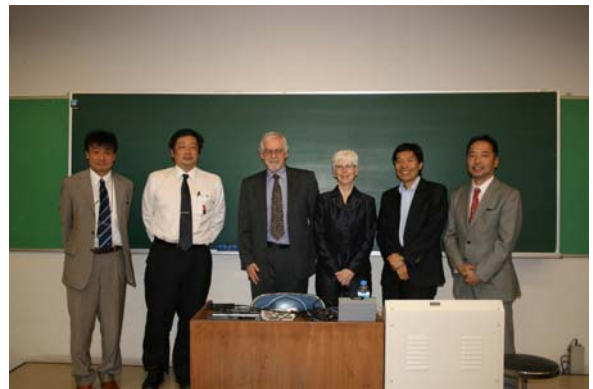
昭和大学歯学教育セミナーが開催されました

歯科補綴学教室 菅沼 岳史

10月31日に歯科病院臨床講堂において、USC(南カリフォルニア大学)の Glenn Clark 教授と Roseann Mulligan 教授ご夫妻をお招きし、昭和大学歯学教育セミナーが開催されました。まず、USCの副歯学部長でもある Mulligan 教授からは、特別な配慮の必要な高齢者や障害者を対象とした Special care clinic おける卒業研修プログラムについてご講演いただきました。このプログラムでは、障害者歯科治療技術の習得のみならず、臨床研究についての教育も行われ、障害者歯科における指導者を育成することを

目的に構築されています。また、障害者歯科の専門医制度を米国において確立するための取り組みについてもお話しいただきました。

つづいて Oral Medicine and Orofacial Pain Center の Clark 教授からは、Web上のバーチャル患者(VP)を用いた学生教育への取り組みについてご講演いただきました。WebベースのVPシステムが完成すると、歯学部学生はこのシステムを、いつでも、どこからでも使用することができ、さらには教育者も学生の学習状態をトラッキングできるようになります。VPの教育効果については医科領域においてすでに研究成果が蓄積されつつあり、医療面接などのコミュニケーション教育を重視する昭和大学においても大いに活用できると考えられました。



受賞

広報委員長 井上 富雄

・片岡洋子(歯科矯正学教室 普通研究生)
平成20年の日本矯正歯科学会学術奨励賞を受賞されました。

論文「歯・顎顔面用コーンビームX線CTによる歯槽骨の三次元画像診断—その寸法精度と歯槽骨の再現性—」

・山口徹太郎(歯科矯正学教室 講師)
平成20年9月18日に千葉で開催された第67回日本矯正歯科学会において、学術大会優秀発表賞を受賞されました。

演題名「永久歯の先天性欠如の発現に
関与する因子としてのアレルギー疾患」

・古屋良一(歯科補綴学教室 教授)
日本顎口腔機能学会の学会特別賞を受賞されました。



編集後記

口腔微生物学教室 深町 はるか

今年も残すところ1ヶ月となりました。旗の台校舎は恒例のイルミネーションで彩られています。今年は、噴水の周りに趣向を凝らしたものとなっており、冬の冷たい空気の中で、とてもきれいに輝いております。末筆となりましたが、ご多忙中の折、原稿をお寄せいただきました諸先生方、また広報委員の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。